



八王子町市街（八日町） 明治 39 年 絵葉書より

桑都八王子の明治時代

江戸時代、甲州街道の宿場であった八王子には、生糸、絹織物などの市が立ち、桑都と呼ばれた。しかし、明治十年代に入ると八王子織物は、輸入化学染料の乱用によって粗悪品と悪評されるようになる。このため、明治十九年（一八八六）織物組合を設立するとともに、染色改良のため織物染色講習所（後の東京府立染色学校）も設立した。その結果、明治二十三年（一八九〇）東京上野で開催された第三回国内勸業博覧会で輝かしい成果を収めることが出来た。また、その年に大日本帝国憲法が發布され、町制施行により「八王子町」が誕生した。更に、新宿、八王子間に甲武鉄道（現JR中央線）も開通。明治三十年（一八九七）の八王子大火などを経ながらも、織物業の近代化と桑都八王子としての発展を担った一時代であった。

◇散歩のみどころ

八王子横山十五宿の八日市、横町、本宿、本郷、八木、八幡宿を巡る約5kmの行程。八日町交差点の甲州街道を西へ。直ぐにとっくり亀屋があり、その右斜め前から八幡町交差点の間に本陣と脇本陣跡がある。ここを見て大横町へ。道を左に進むと右側に東映映画劇場跡、更に行くと同谷座（東宝映画劇場）跡、東隣がとうがらし地藏で有名な禅東院、カトリック教会へと続く。いちようホール通りを西にとり大横町に出る。伊勢屋本店跡を見ながら北側にある玉田院と長田作左衛門、塩野適齋らが眠る極楽寺へと歩く。そこから浅川と川口川合流地点辺りへ。像の牙が出土した場所を見ながら、再び大横町へ戻る。福全院、宝樹寺を参詣。北大通りを西へ。本郷横丁を左折し、善能寺、善龍寺を参詣。本郷横丁を東へとり、明治の商家加島屋、八王子電気館跡、八光館跡を見て解散。

①とっくり亀屋

八日町

徳利亀屋は、八王子八日市宿（現八日町）の旅籠。江戸期から昭和六年（一九三一）まで続いた老舗である。富士講、相州大山講、高尾山講などの宿泊所となっていた。屋号は、この旅籠の主人が、不思議な徳利の中に入れて、旅をしたという伝説から「とっくり亀屋」というようになり、徳利の絵を店の標として使用した。その標の付いた木鉢が今でも郷土資料館に保存されている。

今は、とっくり亀屋から拾銭屋、山田屋と屋号は変わり、瀬戸物屋になっている。店の前には、酒壺を背負った信楽焼きの大きな狸が立っている。落語の二代目談州楼燕枝、柳家小さんの十八番“徳利亀屋”でも有名。また、神田伯山、一竜斎貞丈の講談、「国定忠治」「小金井小次郎」にもお馴染みの“武州多摩郡着いたところは八王子徳利旅籠”と名調子

の一声にも一役かっている。



とっくり亀谷の木鉢



とっくり亀谷（八日町）

②本陣と脇本陣跡



とっくり亀谷の店（現、山田屋）

八日町

大名や公家の宿泊所である。戦国、江戸期の御大将の陣所の意からであるという。本陣や脇本陣の主人は、高貴な人の接待という観点からか、名字帯刀を許された旧家が多く、原則世襲であった。

八日市宿は、本陣が一軒、脇本陣が二軒あり、新野与五右衛門と山上善左衛門が交代で務めていた。ちなみに横山宿も同様で、佐藤三郎左衛門、川辺又左衛門が取り仕切っていた。



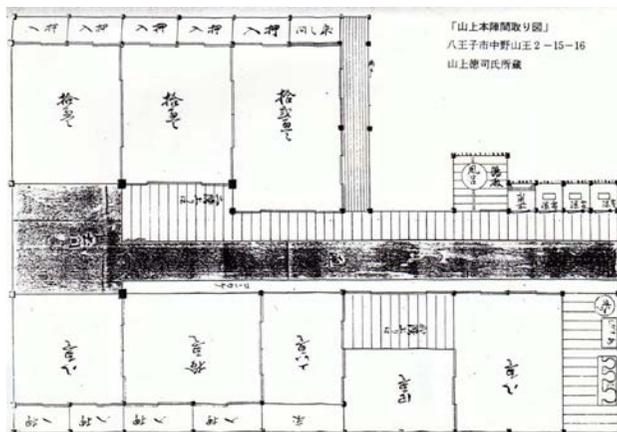
八日市の脇本陣跡（八日町）



八日市の本陣跡（八日町）

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿のうち、横山宿とともに中心となった宿。宿名は、三斎市で八の日に市が立ったことによる。

【八日市宿】



山上本陣間取り図（山上徳司氏所蔵）

● 八日町

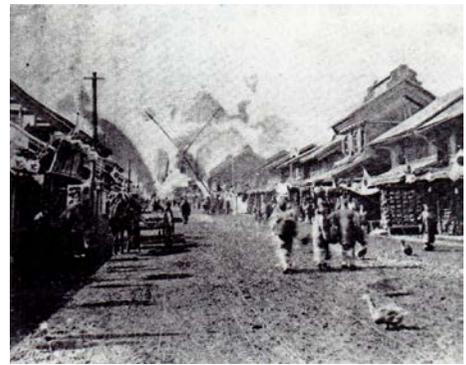
明治十五年（一八八二）、八王子八日町となり、明治二十二年（一八九）八王子町制施行により八日町となる。大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。



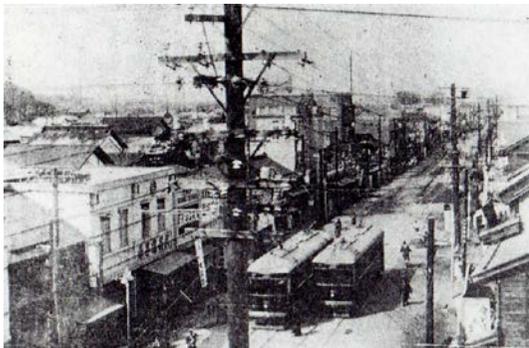
八日市宿跡（現、夢美術館前）



（八王子名勝）八王子町市街八日町通の景
明治末から大正初め頃 絵葉書



大日本帝国憲法発布祝いの町並み
（八日町）明治 22 年 小池陽一氏蔵



横山町米屋呉服店屋上より八日町
八幡町方面を望む
昭和 5 年 多満乃誇



御大典奉祝記念八王子町光景
（八日町三四丁目）
大正 4 年 小田彰一氏蔵 絵葉書



八王子市商店街
昭和 12 年 「八王子商工会議所」

【横町（宿）】

江戸期から明治初期の宿名。八王子十五宿の一つ。甲州街道を八日市宿と八幡宿の境で北へ入る日光往還に沿った位置にあることから横町の名が起った。明治十五年（一八八二）八王子大横町となる。

●大横町

八王子市の東部、浅川南岸にあり中心市街地の一つを形成する。明治二十二年（一八八九）八王子町の成立により、それまでの八王子大横町が大横町となり、大正元年十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

●大善寺横丁

江戸期、大善寺入口の日光街道（現国道十六号線）の、甲州街道から浅川までの間を呼んだ。

③東映映画劇場跡

大横町
八王子消防署北側のエコスの土地には、以前東映映画劇場があった。戦後出来た劇場で、東映映画の放映がされていた。

④関谷座（八王子東宝）

本町
禅東院西側、現在駐車場の土地に関谷座があった。明治二十年（一八八七）頃に開業した劇場で多摩地域の近代演劇の先駆をなした。関谷座の他にも、明治三十年（一八九七）の八王子大火以前から関川亭（せきせんてい）、鳶金亭（とびぎんてい）、栃木亭、清水座などの小屋があった。関谷座は、明治以降の民衆の娯楽として、講談、義太夫、落語、浪曲、手品、幻灯などが行われていた。



東映映画劇場跡（大横町）

大正期末には、トーキー映画が上映されるようになり、昭和十三年（一九三八）の閉座まで人々に親しまれ続けた。

大正五年（一九一六）の新築柿（こけら）落しには播磨屋（初代中村吉右衛門）が舞台を飾っている。昭和三十八年（一九六三）東宝映画劇場となり、その後八王子東宝となった。エノケン（榎本健一）、ロッパ（古川ロッパ）など、映画の上映館として昭和二十年の八王子空襲に遭うまで続いた。また八王子市街地の映画館は、昭和三十年代には九館もあったが、今はニュー八王子シネマ一館だけである。



関谷座跡（本町）



関谷座新築落成記念 大正5年

⑤ 神龍山禅東院

本町一七・一九

宗派 単立

本尊 釈迦牟尼仏

別院 大日如来胎藏界

寺宝 十一面観音立像 六尺五寸

樟一木彫 不動明王立像

愛染明王青石塔婆板碑

開山 少林寺第二世大室隣徹

開創 慶長年間

（一五九六〜一六一五）

慶長年間、曹洞宗となった以前は禅東庵と称した。戦災まで本尊は釈迦、文殊、普賢の三尊、外に十一面観世音（八王子二十八番札所）とうがらし地藏尊、秋葉権現、薬師如来などを奉祀してあった。とうがらし地藏尊は全国三体の一つであると称し、寛文十一年（一六七一）八月二十四日の建立。古くから八王子の縁日に加えられ、往時その祭典は、盛んであった。

開山の少林寺第二世大室隣徹、示寂は元和三年（一六一七）三月十八日である。

当寺歴住中第十七世中興大岳東海は、明治四十四年三月二十三日の示寂で、当寺末寺東慶寺及び東福寺開山である。

明治三十年四月の八王子大火災の折全焼、昭和二十年八月の戦火にも全焼。戦災後いち早く仮本堂庫裡は再建されたが、昭和三十六年十月鉄筋コンクリート造四階建となる。

その後、老朽化のため、全面解体

し、地上二階建ての別院普門殿が平成十一年六月に完成した。

●とうがらし地蔵

小門町蓮生院のとうもろこし地蔵（現在、蓮生院はなく、石仏は緑町の直入院にある。）新町永福稲荷のシヨウガ祭りなど。市内には、作物に縁のある石仏、祭りが残っているが、本町・禅東院の「とうがらし地蔵」もその一つである。

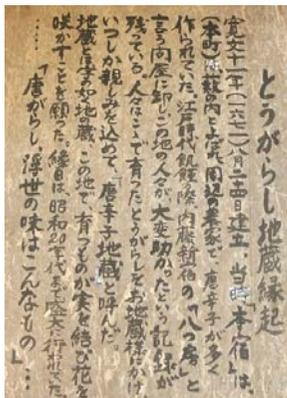
地蔵尊は、寛文十一年（一六七二）当時の八日市宿の人々によって建てられた。もともとは、子どもの供養、守り神として道の辻にあったものだが、いつのころからか禅東院で預かることになったという。

「とうがらし地蔵」の名が付いたのは、その昔、本町一帯の畑でトウガラシを作っていたことから、農民が、作柄が良いようにと願を掛けたことによる。「とうがらしは、内藤新宿にあった八ッ房という問屋に持って行

ったと云われている。

八月二十四日は、この辺りの地蔵盆。昭和十六年ごろまでは、盛大な祭りが行われた。地元の若者が作った本堂の前の舞台では、漫才や落語、茶番劇などが上演され、二十三日の宵宮から賑わった。露店では七色とうがらしも売られた。

この地蔵尊は二代目で、初代は、明治三十年の大火で失われた。この二代目も戦火で火をかぶっている。御難続きの地蔵尊だが、今でも参拝者が訪れる。とうがらし地蔵の回りを囲む六地蔵の首に掛けられた、とうがらしのネックレスが愛らしい。縁日が復活し、十年目を迎えようとしている。



とうがらし地蔵縁起



庭園



禅東院



とがらし地蔵

⑥カトリック八王子教会

本町

カトリック八王子教会は明治八年（一八七五）、八王子教会発祥の元八王子泉町教会、続いて八王子中央への進出など、現在の本町の地に本拠とする迄幾変転もあった。八王子の大火、空襲の被災など、百年の歩みも決して平坦な道ではなかった。

カトリック八王子教会を語るとき、フランス人のメイラン神父なしでは語れない。明治、大正、昭和に渡って生涯をこの教会に捧げた、謹厳で情熱的努力家、生活は極めて質素。徳性豊かで、慈愛に満ちた人柄であった。神父の生活そのものが信者の視覚には福音の実践と受け止められていた。この司祭の薫陶（くんとう）を受けた信者の間から司祭志願が多く出た。

しかし、そのメイラン神父も晩年は淋しかった。敵国人神父として迫害され、都下清瀬ベトレヘムの園に

老骨の身をよせた。生涯を八王子教会への希望は断たれ、老いの身は病苦に、そして教会は戦火にと、斯く辛いものであった。

戦後、故土井大司教は、メイラン神父のために聖堂を建設した。当時は大変な時代であったが、せめても堂内の備品、椅子等は信者の手でと、五年間の歳月に亘り募金を集め、信者としての面目を果たした。戦後は西田神父、杉田神父、青山神父と引き継がれた。



カトリック教会



テストヴォイド神父 ←



メイラン神父 →



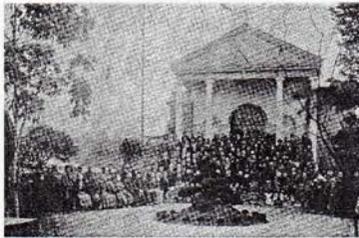
山口重兵衛



山上卓樹



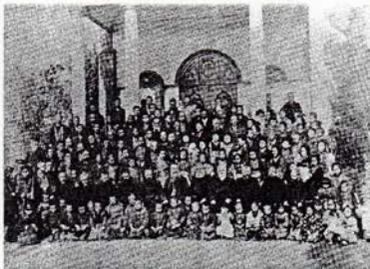
初代塚本五郎



八王子天主公教会



教会堂新築記念全景



大正5年メイラン神父の銀祝



戦前の司祭館

八王子カトリック教会 130年の歴史



キリスト

【本宿】

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿の一つ。元横山村の一部を分割して成立。明治十五年（一八八二）八王子本町となる。

●本町

八王子市の東部、中心市街地の北よりにある。明治二十二年（一八八九）八王子町の成立により、それまでの八王子本町が本町となり、大正元年十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

⑦伊勢屋本店

大横丁

国道十六号線の大横町に和菓子屋伊勢屋本店があった。この伊勢屋は、甲州街道沿いにある横山町の伊勢屋とは関係ないとのこと。横山町の伊勢屋の開業が昭和初期に対し、大横町の伊勢屋は明治時代からの営業だという。戦後新しく建てられた店の屋号は「伊勢屋本店」。建物の軒に辛うじて読みとれるほどに残っている。今はそば屋となり、水車亭という屋号に変わっている。



旧屋号



伊勢屋本店跡（大横町）
現、そば屋 水車亭

⑧寶樹山正受院極楽寺

大横町七、一

宗派 浄土宗

本尊 阿弥陀如来（相好から齒吹如来と呼ばれる。鼻取如来の伝説がある）

寺宝 阿弥陀如来立像

長田作左衛門墓 塩野適齋墓 墓 玉田院墓

「桑都日記」（塩野適齋著、八王子郷土資料館委託保管）

開山 鎮誉即也上人

開基 滝山城主大石定重。一色氏とも伝えられる。

開創 永正元年（一五〇四）

永正元年滝山城下丹木に開創された。後年、滝山城主北条氏照の八王子移転に伴い、当寺も城下梶原谷戸に移ったが、天正十八年（二五九〇）の落城の際の兵火に焼かれる。

翌年代官大久保長安の助力もあって、八王子の町作りに先がけて現在の地に再建された。徳川家からは朱

印十石を寄せられた。現在の本堂は享保十三年（一七二八）の荘厳な建物である。
庫裡は多摩市蓮光寺の旧家を移築したもの。山門、本堂、鐘楼等が整った市内有数の古刹である。



総門



本堂内



本堂



阿弥陀如来
齒吹尊または齒吹如来ともいう

●木造阿弥陀如来立像
(齒吹尊)
寄木造り、漆箔、玉眼。像高九十九cm。室町時代、安阿弥陀快慶の作。わずかに開いた口から齒がみえ、笑みを浮かべたように見える。齒吹尊、齒吹如来とも呼ばれている。また左足の指を僅かに上方に反らせ、信者を迎える姿も特色がある。両足裏の「仏足文」も特徴的。鼻取如来の伝説もある。

●長田作左衛門墓 鄺

長田作左衛門（生年不詳〜一六一七）は、川島作左衛門とも言われている。元は北条氏の家臣。八王子城落城後前田利家に従い、大久保長安の指揮により、現在の市街に宿場を構成させた人物とされる。墓は、嘉永五年（一八五二）に川辺勘十郎などの発願で建てられたという供養塔。



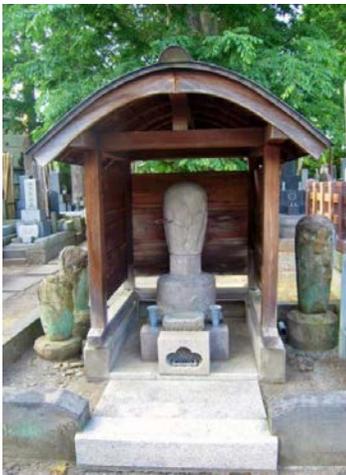
長田作左衛門の墓（中央）と供養塔

●玉田院墓 鄺

俗名を小督、松姫の姪（仁科信盛の娘）。天正十年（一五八二）三月武田氏滅亡後、叔母の松姫と共に八王子へ逃れる。この地に来て仏門に帰依した。出家して玉田院と改名、二十九歳で他界。庵は玉田寺といい、大義寺の西方にあったというが、元禄年間に廃寺となり、墓石を極楽寺境内に移したもの。



長田作左衛門の塚



玉田院の墓

●塩野適齋墓 都

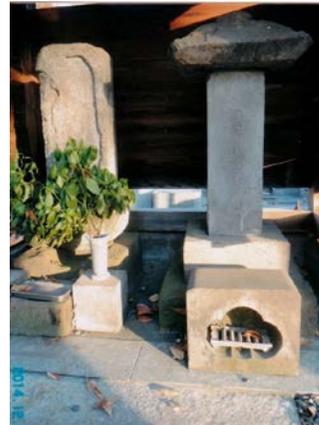
安永四年（一七七五）から弘化四年（一八四七）千人同心組頭河西家の知礼の次男に生まれ、知哲といった。諱（いみな）は轍（てつ）、通称所左衛門。同じ組頭の塩野家の養子となる。学問に秀で「桑都日記」正統五十巻などを著す。「新編武蔵風土記稿」の編纂にも加わる。享和三年（一八〇三）五月蝦夷地御用江戸係となる。



塩野適齋の墓



塩野家累代霊位



塩野適齋の墓

⑨浅川橋

八王子町と小宮村西中野とを結ぶ浅川橋は、明治三十四年（一九〇一）に初めて木橋が架けられた。この道はかつて日光道と呼ばれた。八王子千人同心が日光勤番のため、八王子宿を発ち日光に向かった道である。浅川で見送りの家族達と別れ、川を歩いて渡り、その先の稲荷坂を越え、三泊四日の行程で日光をめざした。

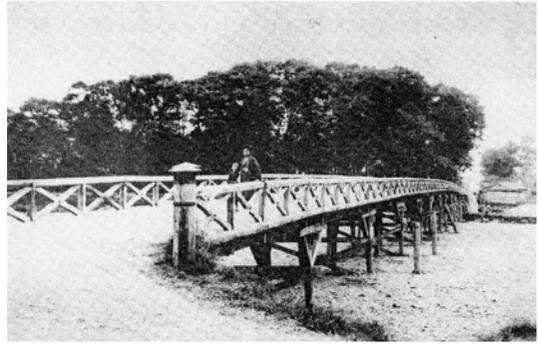


現在の浅川橋

● ハチオウジゾウの牙発見

中野上町一丁目

八王子市中野上町一丁目の浅川橋
下流と川口川合流点近くで、平成二
十三年十月より始まった国土交通省
関東地方整備局京浜河川事務所が、
河川改修工事中の平成二十四年一月
十七日、ゾウの牙を発見した。専門
家の調査で象の牙の化石と確認され
「ハチオウジゾウ」として紹介され



(八王子名勝) 浅川橋
明治末頃 絵葉書



像の牙が発見された
浅川（左）と川口川（右）
の合流近く



像の牙

た。これ以前の平成十四年にも上流
の方で象の化石が発見されている。
牙の長さは、約一m八十五cm、一番
太いところで直径八cm前後。
この象の牙の発見が、八王子の自
然史や学術上重要な研究になってい
る。象の牙の実物は、コニカミノル
タサイエンスドーム二階に展示され
ている。



調査地点



像の牙が発見された浅川
北側の河川（中野上町）

⑩大横山福全院

大横町九、三

宗派 臨濟宗南禅寺派

本尊 聖觀世音菩薩

寺宝 聖觀世音菩薩坐像 花御堂

寛政十一年四月八日湛然宗

保和尚代

六地藏尊石像 天保四年癸

巳年仲春（陰曆二月）造立

炉華（木蓮華）燭台文化六年

巳巳年九月湛然宗保和尚代

涅槃図（四×一・九五m）

釈迦出山の図十六羅漢軸

開山 天界令高禅師

開基 内田兵衛直吉

開創 宝徳元年（一四四九）

開山の天界令高禅師、天文元年（一

五三二）二月一日寂。中興開山の樹

天令俊禅師、慶長四年（一五九九）

二月二十七日寂。慶長四年香林祖泉

和尚創建の塔頭玉林寺は、後に福全

院に併合現在に至る。

福全院除地四反二畝二十歩、玉林

寺境内二反二畝。

開基内田兵衛直吉は、現市内谷野

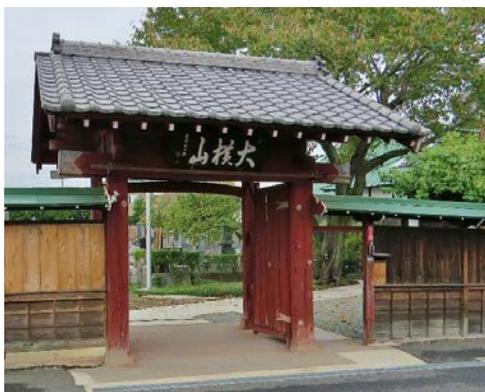
町住、内田一氏の祖。

現本堂は、元文三年（一七三九）

建立、庫裡は寛永十五年（一六三八）

建築と伝う。

八王子三十三観音第二十七番札所。



福全院門



聖觀世音菩薩



本尊



本堂

● 水天宮

境内には水天宮が鎮座している。この水天宮は、八王子水天宮として安産御神帯受けの信者が、五日市や国分寺、近郷近在から宮参りに来るという。毎月五日がお堂開き、正月五日は初水天宮として賑わっている。



水天宮

⑪ 四木山声寿院宝樹寺

大横町一〇・一八

宗派 時宗

本尊 阿弥陀如来

寺宝 三条小鍛冶図 歌川国直筆

開山 嘉元二年（一三〇四）

開創 正和四年（一三一五）

遊行二祖真教「當地御化益の際諸人の信仰に依り」によって創建される。

寛文四年（一六六四）辰の二月遊行四十一代独朗上人當地御化益の時、聲阿弥陀枳尼天を勧請した。文化元年（一八〇四）に堂を焼失した。現本堂は天保二年（一八三一）再興。本堂を含む境内一帯は、昭和二十年（一九四五）八月の太平洋戦争による八王子空襲の戦禍を免れ、市内では数少ない戦前の面影を残している。



阿弥陀如来



宝樹寺

● 閻魔堂

宝樹寺の北側に閻魔堂がある。創建は不明だが、寺の創立からするとかなりの年代を経ていると思われる。堂内中央には、寄木造りの閻魔王の坐像、両脇には十王と脱衣婆、獄卒などの像が並んでいる。

閻魔王は、古くインドのバラモン教神話に見る神。中国へ渡ると道教の影響で、十王の一人として冠をかぶり、道服を着て憤怒相をした地獄の裁判官になる。日本に渡った閻魔王は、複雑怪奇を極める存在となり、地藏経中の第一人者となった。

新編武蔵風土記稿によると、現在の八王子市域には新町、大横町、散田村（並木町二か所）、下柵田村（狭間町）、大楽寺村（大楽寺町）、留所村（加住町）、越野村（越野）に閻魔堂、十王堂の名称で街道筋や寺院の境内に多くあったという。廃仏毀釈や火災、戦災のために、今では新町の十王堂と大横町の閻魔堂の二か所となっている。



閻魔大王



十王堂と閻魔大王



閻魔堂

● 寺宝 歌川国直の額

「三条小鍛冶宗近」

閻魔堂に、歌川国直の「三条小鍛冶宗近」の額が奉納されている。

国直は、浮世絵師。信濃生まれ、本名は吉川鯛蔵。寛政四年（一七九二）生まれ、嘉永七年（一八五四）没。ただ生没には諸説ある。

文化六年（一八〇九）歌川豊国の門下として学ぶため江戸に住み、弘化二年（一八四五）の頃八王子に住んだ。芝居絵や絵草紙に秀でていたが、天保の改革で人情本や絵草紙の取り締まりに遭い、一時は風景画も描いていた。墓は極楽寺にある。



歌川国直の墓



閻魔堂に奉納されている歌川国直の額
「三条小鍛冶宗近」

● 聲阿彌 稻荷社

せいあみいなりしゃ

境内に火防せの神、商売繁盛の神として崇敬されている聲阿彌稻荷社がある。一説に、藤沢遊行寺独朗上人が聲阿彌陀仏の布教の途次、八王子で死去され、遺志により創建したという。拝殿は、嘉永二年（一八四九）、大工山本留次郎延嗣、高尾虎吉重近、彫刻は牧田巳之助矩中によって再建されている。明治三十年の八王子大火、大正十一年の関東大震災、また昭和二十年八月の八王子空襲を免れ、現在に至っている。



聲阿彌稻荷神社

● 日限地蔵

ひぎり

境内に安置されている。この地蔵尊は、日を限って願掛けをすると霊験あらたかになるといわれる。「大欲は無欲に似たり」といわれ、日々を正しく生きる欲のない者に御利益があるとか。昔はお参りの人々で賑わったというが、今は寺の法要日に一緒にお参りする人が増えているという。



奥 殿



日限地藏様



日限地藏堂

● 瘡守 稻荷

かさもりいなり

宝樹寺境内の片隅にお椀がつるさ
 れている祠がある。「瘡守稻荷」であ
 る。このお稲荷さんは、戦前まで遊
 廓のあった田町や飲食店の多い中町
 の女性がお参りすることが多かった。
 「瘡」は「梅毒」の俗称でもあった。
 性病の危険と背中合わせで毎日を過
 ごさざるを得なかった遊廓の女性た
 ちが、深夜人通りが途絶えるのを見
 計らってそつと手を合わせ一心に祈
 る姿があった。

お椀をつるす風習は、蓋で椀の中
 に病を封じ込めてしまいたいという
 庶民の切なる願いからだという。

最近では、アトピー性皮膚炎など
 の平癒を祈ってお椀を奉納する人も
 いるという。健康への願いを込めた
 庶民の思いが、今でも街の片隅で息
 づいている。



瘡を封じ込む椀



瘡守稻荷

● 玉川文蝶の墓

境内の一角に「写し絵」で有名な玉川文蝶の墓がある。本名野和田文永。生まれは福生村（現東京都福生市）。明治の初め頃、大横町宝樹寺の前で玉川屋という旅籠を営んでいた。当時多摩地方で流行していた説経節を習い、明治七、八年頃から写し絵を始めたという。

写し絵に説経節の語りをつけて段物を演じ、少ない画数で長時間見せ



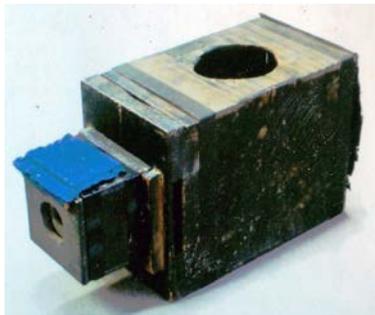
中 荷稻守瘡

るようになったのは、文蝶が最初といわれている。写し絵は、影絵、影絵人形、錦絵などと呼ばれ、彩色されたガラス絵にランプを光源とした幻灯機を使った。和紙のスクリーンに裏側から映写し、鳴り物や浄瑠璃に合わせて物語を見せるというもの。調布の玉川文楽、八王子の玉川文蝶、玉川馬蝶などが説経節を語りとしていた。

墓の側面には「兄君江手向 宇久伊寿能古ゑをち可具尔 志伝のたび」と刻まれている。



玉川文蝶 明治 21 年
(本名 野和田文永)

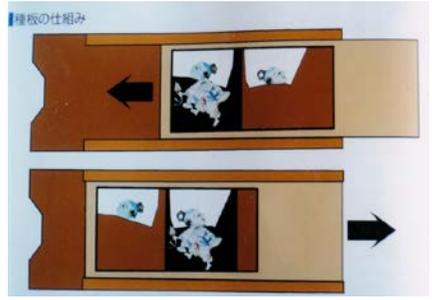


風呂と呼ばれている
木製の映写機

文蝶の墓の左側に刻まれている俳句「うぐいすの声を近くに死出の旅」



文蝶の墓



種板の仕組み



種板 福助三番叟



種板 八百屋お七

⑫ 観池山往生院 大善寺跡

大横町

宗派 元浄土宗（現単立法人）

本尊 阿弥陀如来

開基 北条氏照

開山 讃誉牛秀上人

開創 不明

一説には永禄年間（一五五八〜七〇）滝山城主北条氏照が菩提寺として滝山城下に創建したものと伝えられている。その後八王子城下の梶原谷戸に極楽寺とともに移転、更に天正十八年（一五九〇）八王子城落城により現在の大横町に極楽寺とともに移転した。滝山の地名を付した三百五十年にわたる大横町時代に入り、浄土宗の学問所として栄えた。

江戸期には寺領五十石、御朱印十石を拝領。境内二万坪に総門、山門、鐘楼、経蔵、本堂、吞竜堂、方丈、学寮等大伽藍を持ち、塔中六、寺持一、支配寺二、末寺二十二ヶ寺を有し、武相地域の広範囲にわたっていた。

また、明治初年には明治天皇祈願寺にもなった。昭和二十八年（一九五三）単立法人に移行。昭和三十六年（一九六一）仮移転の大和田町から現在の大谷町に再移転している。関東十八檀林の一つ。

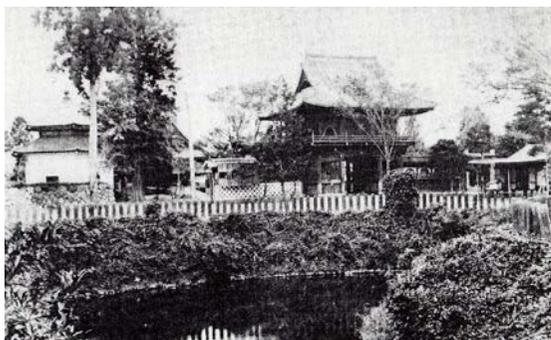


本尊 阿弥陀如来

● 然誉・吞竜様

弘治二年（一五五六）四月二十五日生まれ、元和九年（一六二三）に没。埼玉郡一割村井上将監信貞の子。字は故信、幼名竜寿丸、吞竜と称した。のち上野国（群馬県）太田大光院開山。慶長五年（一六〇〇）家康の命により大善寺第三世となる。

明治十年頃まで毎月十日には「吞竜さま」の縁日が開かれ、「子育ての吞竜」とも呼ばれていた。



(八王子名所) 八王子大善寺
大正 10 年頃 絵葉書



八王子町十夜市の景況
明治 40 年代 「八王子商工案内」

● 旧大善寺のお十夜

毎年秋の十月十三日〜十五日、大善寺のお十夜には近郷近在からの参拝者と見物客で大いに賑わっていた。大善寺のお十夜は、年中仏事最大の行事で関東三大十夜法要の一つに数えられていた。一般的には「八王子のお十夜」として知られ、三百年余の伝統を有していた。

このお十夜は、八王子城落城の戦死者の霊を慰める法要として江戸初期から始められたという。江戸中期以降には関東一円に知られるようになり、念仏様式も鎌倉光明寺の流れを汲んだ滝山流（大善寺流）と独自の形式をもっていた。

大正、昭和前期になると、境内に見世物小屋やキグレ、木下、シバタ、カキヌマ等のサーカス小屋がかり、見物客で賑った。昭和三十六年（一九六一）十月を最後に、お十夜法要は終止符を打った。



お十夜の光景(大善寺境内)
昭和 5 年 10 勝ち 13 日



ユニカミノルタサイエンスドーム



今の商工会議所と宝樹寺
道路は旧参道

⑬ 摂取山諸念院善能寺

元本郷町一丁目

宗派 真言宗大谷派

本尊 阿弥陀如来

寺宝 親鸞上人木像

開山 開基ともに不詳

開創 不詳

中興開山は、八王子城主北条氏照
家臣中山勘解由家範の子空栄上人と
伝えられている。江戸初期に再興、
御朱印寺領六石を拝領。往時は安善
寺、正西寺の二寺のほか、下恩方村
に末寺専光院を擁していたが明治初
年廃寺となる。

明治三十年（一八九七）、八王子大
火により一時八王子町仮役場に移動。
その後、昭和二十年（一九四五）八
月八王子空襲により本堂などを焼失。
戦後、山門、本堂、庫裡等を再建。
境内には、八王子建設業組合の寄進
による聖徳太子堂がある。また墓場
には、俳優平田昭彦（女優久我美子
の夫）の墓がある。



本堂内部



善能寺本堂

⑭ 興栄山善龍寺

元本郷町一丁目

宗派 日蓮宗池上本門寺末寺

本尊 大曼陀羅御本尊

寺宝 天然理心流増田蔵六免許皆伝

巻物並びに木剣(大・小)

開基 本妙院日英上人

開創 室町時代・長享二年

(一四八八)

善龍寺は、長興山妙本寺(鎌倉)と長栄山本門寺(池上)の二字を取り、山号を興栄山と付けた。

滝山城下、八王子城下と移転し、天正十九年(一五九二)に池上本門寺十二世仏乗院日惺上人の尽力により現在地の本郷村に移り、寺観を調えた。



俳優：平田昭彦
(小野田)の墓

またこの江戸期には、こんなエピソードが伝わっている。俠客国定忠治の一人の子分清水のガン鉄は、赤城山から八王子に流れて、第十八世日選上人に救われ、善龍寺の寺男となり世を忍びながら、天保十五年(一八四四)平岡町で死去。法名は、観妙院清光日如居士。安政六年(一八五九)遺骨を郷里群馬県東国定に移葬した。



善龍寺本堂

● 天然理心流・増田蔵六

善龍寺本堂前に増田蔵六翁之小伝碑が建っている。蔵六は、戸吹村の千人同心坂本重右衛門の子として、天明六年(一七八六)に生まれた。その後、三沢家の養子に入り、更に四十歳で増田家の養子になっている。蔵六は、天然理心流二代目坂本三助(方昌)に師事し三代目となった。剣術、柔術、棍術に優れ、江戸期の天保・弘化の頃は門人千人を超えたという。



本堂内

境内には、蔵六の小伝碑、墓所、堂内には、木刀と免許皆伝の巻物が保存されている。明治四年（一八七一）、八十六歳で生涯を閉じた。



増田蔵六愛用の木刀と額
(増田家より寄贈)



増田蔵六翁墓碑

● 鬼子母神像

本堂の右側に鬼子母神像が安置されている。鬼子母神は、インドの羅刹（鬼）といわれていたが、仏の力で改心し、仏教の守護神となった。とくに日蓮宗では祈祷の守護神となっている。



鬼子母神像



増田蔵六翁之小伝碑

● 走大黒天像

本堂左側には走大黒天像が安置されている。大黒は、インドの恐ろしい神だったという。中国に渡ると食物の神として台所に祀られ、日本では農業の神として信仰されるようになった。やがて七福神の代表格となる。



走大黒天

● 浄行菩薩像

境内右側の祠には、浄行菩薩像が安置されている。浄行菩薩は、上行、無辺行、浄行、安立行の羅薩であり、水の徳によって煩惱や病の障りを洗い流してくれるという。

浄行菩薩像の蓮華座には、五行成満した大観院日照上人の苦修鍊行のすえに延びた髪の手が、衆生救済の願いを込めて埋め込まれているという。



浄行菩薩様の堂



浄行菩薩様

【本郷宿】

江戸期から明治期の宿名。八王子横山十五宿の一つ。下本郷宿とも呼んだ。明治十五年（一八八二）八王子本郷町となる。

●本郷町

市街地の北よりにある。明治二十二年（一八八九）八王子町制施行により、それまでの八王子本郷町が本郷町となり、大正元年十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

●本郷村

江戸期から明治前期の村の名。上本郷宿とも呼ばれた。多摩郡由井領のうち。江戸初期に八王子横山十五宿の本郷宿と分けた。明治二十二年（一八八九）八王子町の大字元本郷町となり、その後元本郷町となる。

●本郷横丁（絹の道横丁）

八木町と八幡町境の甲州街道から北へ延びる現在の秋川街道の萩原橋までの間をいう。交差点の標示にも本郷横丁の名が付されている。江戸時代は本郷宿、現在の本郷町に面したところから名付けられた。

製糸工場主の名をとった萩原橋、片倉組八王子製糸場があり絹の道横丁とも呼ばれた。

【八木宿】

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿の一つ。甲州街道の横山、八日市両宿の加宿として生まれた。明治十五年（一八八二）八王子八木町となり、明治二十二年（一八八九）冠称を廃して八木町となった。

●八木源左衛門

武田勝頼家臣。天正十年（一五八二）三月、信玄の客臣成田友兵衛康成は武田家滅亡の際に、勝頼の子秀丸を八木に託し殉死。八木は秀丸を連れ八王子の東久保（現八木町）に隠れ住んだが、天正十八年（一五九〇）秀丸病死。源左衛門はそれを悲しみ、観音像を刻み一庵をむすぶ。これが後の宗徳寺となる。八木町の町名は、彼の名からとられたという。

●八木町

市街地の西よりにある。明治二十二年（一八八九）八王子町の成立により、それまでの八王子八木町が八木町となり、大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

⑮加島屋と加島横丁

八王子横山十五宿、八幡宿の甲州街道中程に荒物屋加島屋がある。この建物は、明治十二年（一八七九）建築の重厚なもの。大火、震災、戦災と幾度かの災害に遭いながらも市内ではこの一軒だけが残っている。道を尋ねられたとき、加島屋の横を右、左と案内することから横丁の名がついたという。今でも、昔の姿を残したまま商いをしている。



加島屋（八幡町）
前の道は甲州街道

⑯八王子電気館跡と

八光館跡

八幡町の八王子電気館跡は、現在グルメシテイーとなっている。大正十一年（一九二二）十月十六日開館。昭和十八年（一九四三）映画が配給制になるまでは松竹系の映画館であった。八王子で初めてのトーキー映画「大尉の娘」（井上正夫・水谷八重子主演）、「天国に結ぶ恋」（竹内良一・川崎弘子主演）、「麗人」（粟島すみ子主演）など上映したが、昭和二十年（一九四五）の八王子空襲で焼失した。その後、八王子空襲で焼野原になった一年半後の昭和二十一年二月十一日、八幡町交差点から東へ百mほど行ったところに八光館が開館した。現在、クレールマンションが建っている場所にあたる。前年の空襲で市街地が焼き払われ、バラックばかりの中に、木造平屋建て座席数四百席の映画館が建てられた。

当時の入場料は大人四十円、子ども二十五円。時代劇やメロドラマなどの日本映画を夜十時ころまで上映した。また上映の合間には、歌謡ショーなども行われ、美空ひばり、ディック・ミネ、霧島昇など、後に名声を博した歌手も出演した。しかし、昭和三十八年、テレビの普及とともに閉館を余儀なくされた。



電気館（八幡町）
現、グルメシティー



八幡町にあった八光館
昭和 37 年



八王子電気館
昭和 57 年「多満乃誇」

現在の八幡町の前身。八王子横山十五宿の一つ。天正十八年（一五九〇）八王子城落城に伴い城下の三宿を現在地に移転し、町作りを進めた。明治十五年（一八八二）八王子八幡町となる。明治二十二年（一八八九）冠称を廃して八幡町となり、八王子商業の中心地として繁栄してきた。

【八幡宿】



八光館跡
現、クレールマンション

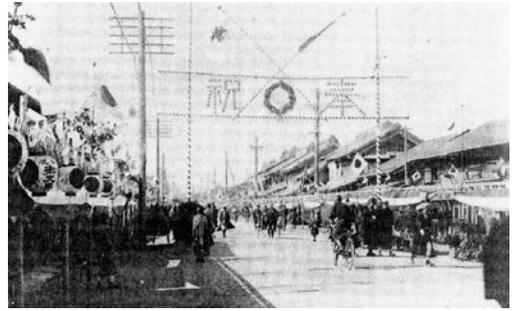
八幡宿は、北条氏照が滝山城にいた頃の村名を八幡宮といったことからといわれている。氏照が八王子城に移ったときも、八幡宿とともに移転し旧名を残している。現在の東京純心女子大学の滝山街道周辺である。現在の八王子城下の元八王子一丁目から石神坂にかけての両側の地で、城山川と城の越川にはさまれた地域を云う。元八王子三丁目に八幡神社がある。

●八幡町

市街地の西よりにある。明治二十二年（一八八九）八王子町制施行により、それまでの八王子八幡町が八幡町となり、大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。



(八王子名所) 八王子方面
(八幡町)
大正 14 年 絵葉書



御大典奉祝記念八王子町光景
(八幡町二丁目)
大正 4 年 小川彰一氏蔵 絵葉書

◎参考資料

- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵名勝図絵
- ・新・旧八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子空襲と戦災の記録
- ・八王子発見・路地散歩案内
- ・八王子の歴史と文化
- ・八王子名勝志
- ・八王子文化財年報
- ・日本総合図録
- ・明治時代の八王子
- ・江戸時代の八王子宿
- ・ONETWOエイト
- ・インターネット各ページ
- ・民族探訪事典 ・多摩文化
- ・まちとむらの火の用心
- ・八幡町一・二丁目町会誌
- ・ふるさと周遊散歩
- ・セピア色の風景
- ・歴史散歩事典